

# 「高齢者の経済・生活環境に関する調査」

平成 29 年 3 月

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）



# 目 次

## 第1章 調査の目的及び方法等

1．調査の目的	2
（1）調査の目的	2
2．調査の仕様	2
（1）調査地域	2
（2）調査対象者	2
（3）標本数	2
（4）調査事項	2
（5）調査方法	3
（6）調査期間	3
（7）サンプリング方法	3
（8）有効回収数	4
（9）調査委託機関	4
（10）企画分析委員会	4
（11）本報告書を読む際の留意点	5
3．調査対象者の基本属性	6
（1）性別（F1）	6
（2）年齢（F2）	6
（3）未既婚（事実婚を含む）（F3）	7
（4）同居者（F4）	7
（5）別居の子の有無（F5）	8
（6）最終学歴（中退を含む）（F6）	9
（7）収入のある仕事の有無（F7）	9
（8）就業形態（F8）	10

## 第2章 調査結果の概要

1．経済的な暮らしに関する事項	12
（1）経済的な暮らし向き（Q1）	12
（2）平均収入額（Q2）	14
（3）大きな割合を占める支出（Q3）	16
（4）負担を感じている支出（Q4）	18
（5）満18歳以上の子や孫（学生を除く）の生活費をまかなっているか（Q5、Q5-1）	20
（6）生活費をまかなっている子や孫（学生を除く）は同居か別居か（Q6）	22
（7）生活費をまかなっている子や孫（学生を除く）の就業状況（Q7）	24
（8）生活費をまかなっている子や孫（学生を除く）の日頃の活動状況（Q8）	26
（9）生活費をまかなっている子や孫（学生を除く）との望ましい関係性（Q9）	28
（10）貯蓄の目的（Q10）	30
（11）財産管理への対応（Q11）	32
（12）日常的な介護の対象（Q12）	34
（13）家族・親族の介護を担う中での思い（Q13）	36

2．住宅や生活環境に関する事項	38
（1）住宅の種類（Q14）	38
（2）今後必要になると考えるリフォーム（Q15）	40
（3）現在の住居が将来的にどうなるか（Q16）	42
（4）日常の買い物の仕方（Q17）	44
（5）買い物に行くときの主な手段（Q18）	46
（6）その手段を選んだ理由（Q19）	48
（7）徒歩圏内で利用できる施設（Q20）	50
（8）居住地域で今後不便を生じる可能性があると考えもの（Q21）	52
3．社会的活動への参加に関する事項	54
（1）住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況（Q22）	54
（2）社会的活動内の役割（Q22 - 1）	56
（3）社会的な活動で役に立っていること（Q23）	64
（4）活動を始めた時期（Q24）	66
（5）活動を行っている場所（Q25）	68
（6）活動に対する報酬の有無（Q26）	70
（7）活動を始めたきっかけ（Q27）	72
（8）活動をしていてよかったこと（Q28）	74
（9）社会的な活動をしていない理由（Q29）	76
（10）60代前からやっておけばよかったこと（Q30）	78

### 第3章 調査結果の解説（執筆者 50音順に掲載）

・高齢者の生活圏と移動手段	83
中央大学大学院戦略経営研究科教授 佐藤博樹	
・「いわゆる」社会貢献活動する意思を持たない高齢者の特徴	88
公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団研究部主任研究員 澤岡詩野	
・世帯類型別にみた「高齢者の経済・生活環境」について	
「単身世帯」「夫婦のみ世帯」「子どもと同居する世帯」の比較	95
みずほ情報総研株式会社社会保障・藤森クラスター主席研究員 藤森克彦	

### 第4章 集計結果

調査票（単純集計結果付）	111
クロス集計表	125